

家康の銅活字静岡に

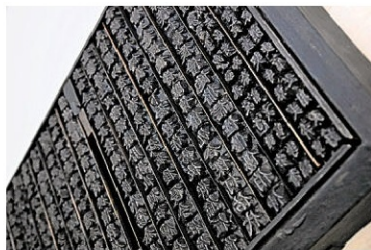
凸版印刷 レプリカ、商議所に寄贈

徳川家康の命で作られた金属活字「駿河版銅活字(東京都・印刷博物館所蔵)」を所有する凸版印刷(足立直樹会長)が14日、静岡市葵区のしずぎんホール「ユーフォニア」で、



足立会長から銅活字のレプリカを受け取る酒井会頭(中央)、後藤名誉会頭(右)
＝静岡市葵区のしずぎんホール「ユーフォニア」

岡商議所(酒井公夫会頭)に寄贈した。足立会長が酒井会頭、後藤康雄名誉会頭にレプリカを手渡した。足立会長は「静岡の地に家康公の銅活字



「駿河版銅活字」のレプリカ

が参る手伝いができて「駿河版銅活字」は日本の銅活字として最も古とされる。レプリカは中国の唐代にまとめられた書物「群書治要」の一部を表している。同市は家康を展示テーマの柱に据えた歴史文化施設の整備を計画している。後藤名誉会

頭は「家康が残した文化的功績を市民のみならず、歴史的にも展示してほしいと思う」と話した。寄贈式は、山室恭子東工大教授が講師を務めた徳川みらい学会の講演会の後に行われた。(社会部・駒木千尋)